

学習指導案形式例【特別活動 学級活動（3）】

第4学年〇組 学級活動（3）指導案

指導者 〇〇 〇〇

学級活動（3）の指導案は、活動内容の「（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」の特質を踏まえて作成します。学級活動（2）と同じく話し合いを生かして具体的な実践方法などを意思決定し実践していく活動です。特に学級活動（3）においては、その実践が将来に向けた自己実現に関わっているということに特質があります。指導案においても、児童の現在及び将来の生き方を考える基盤となるということに留意します。学級活動（3）の指導案に示す内容としては、題材、児童の実態と題材設定の理由、育成を目指す資質・能力、事前指導、本時のねらい、指導過程、使用する教材・資料、事後指導、評価の観点などが考えられます。

1 題材「4年生になって」

学級活動（3） ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

年間指導計画を基に、題材を設定します。その題材がどの内容なのかを明記します。学級活動（3）内容の符号（ア～ウ）とその「内容項目」を記述します。

■学級活動（3）一人一人のキャリア形成と自己実現

- ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
- イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
- ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

2 題材について

（1）児童の実態

学級会では、事前の活動から事後の活動、振り返りまで、児童が自主的、実践的に取り組む姿が見られるようになってきた。また、活動を通して友達のよさに進んで気づき、協力して活動しようとする態度も育ってきた。一方で、自分自身のよさや可能性を客観的に認知し、生かそうとしている児童は多くない。10歳になるこの時期の児童は、様々な人に支えられてたくさんのことができるようになったことなど、「今までの自分」を振り返ったり、高学年に近づく「これからの自分」について考えたりしている。

児童の学級生活における実態や、学級活動における実態などについて記述します。

（ポイント）

- ・今年度の学級目標
- ・児童生徒の学級生活における実態と特別な配慮を要する児童生徒への支援
- ・題材に関する学級集団の実態（意識調査等）

（2）題材設定の理由

今回、「今の自分」のよさや可能性を客観的に見だし、4年生として「なりたい自分」を見定め、「今の自分」が取り組んでいくことを意思決定することにより、今年度、さらにはその先の将来に向けて希望や目標をもって生きようとする態度が育成されると考え、本題材を設定した。事前のアンケートを活用して、3年生の1年間を想起して、自分の得意なことや経験したことを振り返り、自分のよさや可能性に気付かせるとともに、自分たちの成長について確認し、友達と共有できるようにする。そして、今がんばることの大切さを理解し、話し合いを通して、他者の意見も踏まえて、自分ががんばることを意思決定できる

ようにしたい。一人一人の取り組む内容は違っていても、ともに「理想の学級・なりたい自分」を目指して努力する仲間として、励まし合って実践を積み重ねていくことを期待したい。

- ・題材設定の理由
- ・評価との関わりについて、学習指導要領での位置付けを示し、本題材を通してどのような児童生徒が育つと考えているか（題材の価値）を記述します。

3 評価規準

第3学年及び第4学年の評価規準

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活や学習への課題について考え、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら、主体的に行動しようとしている。

4 事前の指導

児童生徒の活動	指導上の留意点	目指す児童生徒の姿と評価方法
アンケートやノート等に記入する。	・学校教育目標を作成する際、児童と保護者にとったアンケートを提示する。 ・3年生を振り返るとともに4年生として、「理想の学級・なりたい自分」について考えるように知らせる。	自分のよさや可能性を生かしてなりたい自分について考えることができる。 （思考・判断・表現） 【アンケート、ノート】

5 本時のねらい

これからの学級や学校生活に希望や目標をもち、自分なりのめあてをもって学校生活を送ることができるようにする。

6 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿と評価方法
導入（つかむ）	1 3年生の1年間の思い出し、自分や友達、自分たちの成長について話し合い、問題意識を高める。	・3年生の1年間で様々な経験や努力したことを振り返り、一人一人が成長したことに気付くことができるようにする。	アンケートの結果をまとめた表 3年生を振り返って記入したノート	

展開 (さぐる) (見つける)	2 これまでの自分を振り返って「なりたい4年生」について自分の願いをもつ。 3 「理想の学級生活・なりたい自分」に近づくために、どのようなめあてにすればよいか考え、話し合う。	・本時の学習の見通しと意思決定すべきことが分かるよう、学習のプロセスを説明する。 ・学級教育目標や担任の方針などについても、具体的に話す。 ・目指したい学級生活やそうした学級生活を実現するためにはどんなことに取り組んだらよいか、話し合うようにする。	学習カード	・よりよく生きていくために、自分のよさや可能性に気づき、今できることに努力して取り組むことが大切であることを理解している。 (知識・技能) 【学習カード・発言】
終末 (決める)	4 「なりたい自分」に近づくために、今がんばることを決め、めあてカードに書く。	・実践可能な具体的なめあてや実践方法を決めることができるようにする。 ・めあてを立てることが難しい児童には、個別に言葉かけをする。	めあてカード	・なりたい自分に向けて、自分のめあてを意思決定することができる。 (思考・判断・表現) 【めあてカード】

7 事後の活動

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・自分の立てためあてや実践方法について、振り返る。 ・友達同士で実践を確認し合う。	・事後に実践を振り返る機会を設定し、継続した実践になるようにしたり、必要に応じて新たにめあてを立てて取り組んだりすることができるように助言する。 ・学習で記入しためあてカードは、一定期間、学級で取組、その後はポートフォリオ的な教材に保存し、いつでも確認できるようにする。	・友達と励まし合いながら、意思決定した目標に粘り強く取り組み、これからの自分に必要なことを適切に判断しながら、進んで実践している。 (思考・判断・表現) 【観察】

- ・帰りの会などで定期的に振り返ったり、学年だよりや学級だよりなどを通じて家庭と連携したりして、意思決定したことの実践意欲の継続を図っていきます。
- ・児童自らが記録と蓄積を行い、振り返ることで、新たな生活や学習への目標や、将来の生き方などについて記録していけるようにします。

【引用文献】

- ・国立教育政策研究所「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編」平成30年12月
- ・国立教育政策研究所「学校文化を創る特別活動（中学校・高等学校編）」令和5年3月
- ・国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校特別活動
令和2年3月
- ・文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編 平成29年7月